



TITLE:

七月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

七月の天象. 星 1930, 5: 12-14

ISSUE DATE:

1930-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169017>

RIGHT:

七月の天象

太陽

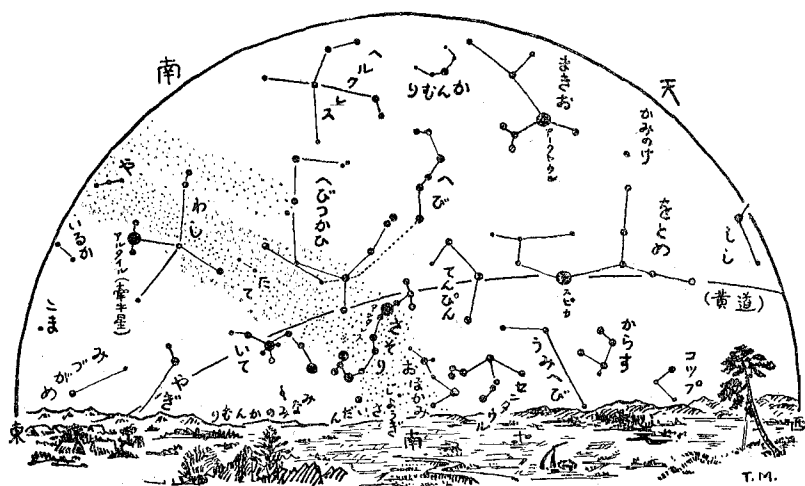
日	赤 經	赤 緯	視直径	星 座
1	6時38分48秒	北23度 9分	31分31秒	ふたご
11	7時15分50秒	北22度18分	31分31秒	ふたご
21	8時 0分19秒	北20度34分	31分32秒	か に
31	8時39分49秒	北18度24分	31分34秒	か に

月始めは巨蟹宮に在るも、23日よりは獅子宮に侵入する。3日に地球は遠日點を通過する。即ち、此の時の太陽視直径は31分30・8秒であつて、以後は次第に大きくなり、月末には31分34・0秒にまでなる。

月

月の相	時 刻	視直径	星 座
上 弦	3日午後 1時 3分 6秒	31分51秒	をとめ
満 月	11日午前 5時 1分 6秒	29分36秒	い て
下 弦	19日午前 8時29分12秒	30分30秒	う を
新 月	26日午前 5時41分51秒	33分23秒	か に
遠地點通過	13日午後10時36分	29分26秒	や ぎ
近地點通過	26日午後 7時 6分	33分24秒	か に

月の遊星歴訪としては、今月は10日午前9時に、土星に出合つて、其の南側を通り過ぎるのが始まりである。次は18日正午に天王星に出合つて、その南側をすれすれに通るのであるが、我國からは殆んど見られない。22日午前10時に火星と出合つて、その北側を通り、24日正午には木星に追ひ付いて、其の北側を通過する。更に26日夜半に水星と出合ひ、北側を通る。又た28日午前3時には海王星を北側で追ひ越し、最後に29日午前2時に金星と出合つて、その北側3度の所を通過して、今月の遊星歴訪を終る。



七月の遊星界

水星 暁の星であるが、ぐんぐん順行して15日には太陽と外合となり、以後宵天に廻る。6日午前7時に木星と僅か24分(角)を距て、並ぶが太陽に近く観望困難。その位置は「ふたご」座ム星附近。

金星 宵の明星「かに」座東端より獅子座東端まで順行する。16日朝海王星と約1度離れて並ぶ(金星は北側)。視直径は月始め14秒、月末16秒。十日月の様な型であるが次第に半月型に近くなる。光度負3等半。

地球 は3日に遠日點を通過する。太陽までの距離は一億五千二百萬軒。

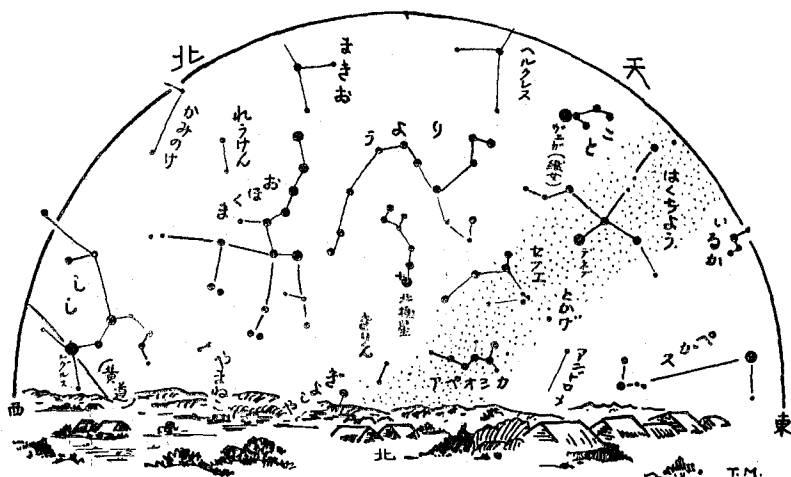
火星 夜半後の出現。月始めに「ひつじ」座東端にあり、順行して月末には「うし」座アルデバラン星の北に在る。視直径は次第に増大し、月末5秒餘り。光度1等餘。

木星 暁の星であるが太陽に近く、月末になればよい。月末の位置は「ふたご」座の中央。光度負1等半。視直径30秒半。

土星 宵に東天に登る。1日に太陽と會合。其時の視直径16秒半。光度零等。地球からの距離は十三億五千萬軒。地球に最も近く、観望の好期。

天王星 夜半に東天に登る。「うを」座にありて、21日の停留以後は逆行となる。視直径3秒餘り。光度6等。

海王星 宵の西空にあり。太陽に近く観望は甚だ困難。光度8等。



七月の恒星界

梅雨があけると、もうすっかり夏である。日中の雲の峯と、宵の「さそり」星座とは、共に夏の來た事を示す最も印象深い姿である。昔時、支那で「さそり」座ア星が、夕方、南中するを見て夏の真中とし、季節を知る目安とした事は、實に尤な事だとなづかれる。「さそり」の西には、まだ「をとめ」が見られ、その南に「ヒドラ」、「からす」、「コツブ」等の、今まで、おなじみだった星座は凡て、西南の地平線に近い。銀河は東より南北に流れ、其の中には、「いて」、「わし」、「はくちょう」、「セフェス」、「カシオペヤ」等の夏の星座が浸つてゐる。天頂には、「かんむり」がきれいな形をして座を占め、その東西に「ヘルクレス」と「まきを」が對峙してゐる。「ペガソス」が東の空に今まさに登らんとし、「しし」は西に没せんとしてゐる。北斗は最も新しみのある位置に來て、北極を指示し、「りよう」は長い身體をくねらして「こぐま」を取りまいてゐる。

「こと」座のベ星は標本的變光星である。双眼鏡があれば、尙ほ結譚だが、なくとも、十分に觀測は出来る。素人の稽古臺として、最適の變光星であるから是非、一度は試して見るとよい。週期は約13日で、變光範圍は3.5等から4.1等までである。